

産業別四半期見通し調査結果 (2020年1～3月期見通し)

■ 県内産業天気図

◇ 2019年10～12月期の現況

▶ 全17業種中、「曇り（普通）」が9業種、「小雨（低調）」が8業種となった。

◇ 2020年1～3月期の見通し

▶ 見通しは、「曇り（普通）」11業種、「小雨（低調）」が6業種となった。方向感では、「やや上昇」が2業種、「横ばい」が15業種となっている。

天気図記号	2019年 7～9月期現況	2019年 10～12月期現況	2020年 1～3月期見通し
 晴れ（好調）	0 業種	0 業種	0 業種
 薄日（順調）	1 業種	0 業種	0 業種
 曇り（普通）	13 業種	9 業種	11 業種
 小雨（低調）	3 業種	8 業種	6 業種
 雨（不調）	0 業種	0 業種	0 業種

■ 1～3月期見通しのポイント

▶ 製造業の天気図、方向感に変化はなく、非製造業では、「自動車販売」「旅客」が、「小雨（低調）」から「曇り（普通）」となる見通し。

照 会 先

一般財団法人 長野経済研究所
調査部（担当：条井、中村（亮））
TEL：026-224-0501


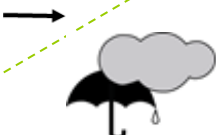
<産業別天気図一覧(17業種)>

■調査内容：業界の「現況」、「見通し」は、県内の企業経営者が業界の景気をどうみているかについてアンケート調査とヒアリング調査をした結果を基に、当研究所が判断した。


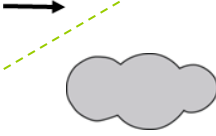
■調査期間：2019年12月中旬～2020年1月中旬 ■調査回答企業：県内主要企業17業種の120社

業 種	前期 (7～9月期)	今期 (10～12月期)	来期 (1～3月期)	
工 作 機 械			→	
半 導 体 製 造 装 置			→	
産 業 用 機 器			→	
電 子 部 品 ・ デ バ イ ス			→	
自 動 車 部 品			→	
光 学 ・ 計 器			→	
プ ラ ス チ ッ ク 製 品			→	
飲 料 製 造			→	
食 料 品 製 造			→	
機 械 器 具 卸			→	
大 型 小 売			→	
自 動 車 販 売			↗	
公 共 工 事			→	
民 間 工 事			→	
旅 客			↗	
貨 物			→	
ホ テ ル ・ 旅 館			→	


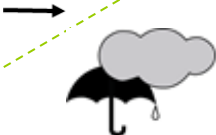
工作機械 : 国内・海外ともに低調な受注が見込まれる

<p>現況</p>	<p>国内の機械需要は、米中貿易摩擦に伴う設備投資の先送りがみられ低調に推移した。業種別では主力の自動車関連を始め半導体・電子部品関連など多くの業種で受注は減少した。海外は、北米向けが、米中貿易摩擦の先行き不透明感から低調だったほか、欧州向けもドイツを中心に低迷した。中国向けは、米中貿易摩擦や景気減速に伴い総じて需要は低調だった。また、東南アジア向けは、主力の自動車関連が減少した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>国内は、設備投資に対する慎重な姿勢は変わらず、主力の自動車関連を始め半導体・電子部品関連などは低調な見通し。海外は、北米向けは、米中貿易摩擦の影響が続き自動車産業を中心に受注は低迷する見込み。欧州向けは、ドイツの回復が見込みにくく、英国はEU離脱の先行き不透明感は解消されず、総じて低調な推移が見込まれる。中国向けは5G（第5世代移動通信システム）関連需要の引き合いが期待されるが、景気減速が続き受注は低迷する見通し。東南アジア向けは引き続き低調な見込み。</p>
	


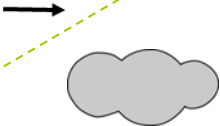
半導体製造装置 : 設備投資に対する慎重姿勢が続く

<p>現況</p>	<p>国内は、ハイブリッド車やEV向けの車載用パワー半導体の生産が堅調で、関連する製造装置の需要も底堅かった。海外は、スマートフォン向け半導体の在庫調整に加え、米中貿易摩擦の影響による生産の落ち込みもあり、半導体関連投資の先送りから新規の装置需要は低調だった。一方、自動車やIoT製品に使用されるセンサー等の需要は増加基調にあり、それらに用いられる半導体用のウエハーといった素材加工や、関連する組み立て・検査などの装置受注は安定的に推移した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>国内は、車載用パワー半導体の製造ラインにおける設備投資が引き続き見込まれ、関連する装置も堅調な需要動向となる見通し。海外は、スマートフォン向け半導体の在庫調整や貿易摩擦の影響により中国を中心に半導体関連投資に対する抑制傾向が続くとみられ、装置の新規受注は低調な推移が見込まれる。自動車などに使用されるセンサー等に関連する製造装置の需要は堅調なもの、半導体業界全体としては設備投資に対する慎重姿勢が続き、製造装置の受注は弱含む見通し。</p>
	



産業用機器 : 機械需要は低調な推移を見込む

<p>現況</p>	<p>FA機器は、国内は設備投資への慎重姿勢が続き、機械需要は落ち込んだ。海外は、米中貿易摩擦の影響に伴い中国における機械投資が減少し、半導体や工作機械などの関連装置を中心に需要は弱い動きとなった。車載関連機器は、国内は堅調な需要動向となったが、海外は中国や欧米の完成車市場が低調で、受注は弱含んだ。冷却装置や空調機器などは、生産ラインにおける省エネニーズが下支えとなるも、総じて設備投資の慎重化により伸び悩んだ。給湯器やガスヒートポンプなどの住設機器は、リフォームや機器更新の需要が底堅かった。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>FA機器は、国内は設備投資の抑制により、機械需要は低調な推移が見込まれる。海外は、中国における機械需要の落ち込みが続き、半導体製造装置や工作機械向けを中心に新規受注は低迷する見通し。車載関連機器は、国内はハイブリッドやEV向けで堅調な需要動向を見込むが、海外はアジアや欧米向けの受注が弱い動きになるとみられる。水冷装置や空調機器なども、当面は弱含んで推移する見通し。住設機器は設備のリフォームや機器更新に伴う需要が下支えとなる見込み。</p>
	


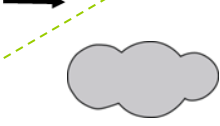
電子部品・デバイス：スマートフォン向けや車載向けで堅調の見込み

<p>現況</p>	<p>スマートフォン向けは、大手完成品メーカーの新機種の販売が順調だったため受注水準は前年を上回り底堅く推移した。各種製造装置やFA機器に組み込まれる半導体や産業用の電子制御部品は、中国の景気減速による在庫調整が続いたことから、国内・海外向けともに受注は低調だった。車載向けは、1台あたりの電子部品の使用量が多い安全運転支援システムを搭載した車種のニーズが高く、堅調に推移した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>スマートフォン向けは、例年閑散期となるが、大手完成品メーカーの既存機種向けの量産が続き、生産は前年を上回る見込み。各種製造装置に組み込まれる半導体や産業用の電子制御部品は、在庫調整が進むものの本格的な回復までには至らず低調に推移する見通し。一方、車載向けは、国内・海外ともに駆動装置、ブレーキ、エンジン制御など電子部品の搭載数が多い新型車向けの需要は底堅く、受注は安定推移する見通し。</p>
	


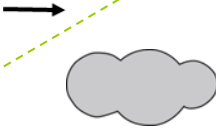
自動車部品：国内受注は底堅く推移するも、海外受注の減少を懸念

<p>現況</p>	<p>国内は、新型車向けの部品受注は堅調だったが、一部メーカーでは部品の不具合による生産の停止や遅れがあり、受注減少がみられた。海外は、北米向けは、人気の高いスポーツ多目的車（SUV）を中心に部品受注は底堅かった。中国向けは、総体の新車販売台数は減少しているものの、日系メーカーの新車販売は堅調で、部品受注も底堅かった。東南アジア向けは、インドネシアやタイを中心に新車需要が落ち込んでおり、部品受注は減少した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>国内は、発売が予定されている新型車向けを中心に受注は底堅く、前年並みの水準となる見通し。海外は、北米向けは、米国の新車需要は弱いものの、SUVを中心に受注は底堅く推移する見通し。中国向けは、引き続き日系メーカーの人気は根強いとみられるが、新車需要の低迷から受注の減少も懸念される。東南アジア向けは、新車需要の回復には時間を要するとみられ、部品受注も低調となる見通し。</p>
	



光学・計器：プロジェクターやガスメーターは順調続くも半導体関連は低調

<p>現況</p>	<p>光学機器は、半導体製造装置向けで海外需要が回復せず新規の受注は低調だった。自動車向けは、新たな部品の受注は伸びなかったが既存部品の受注が堅調だった。また、事業者用プロジェクター向けのレンズユニットの受注は順調だったほか、スマートフォンの部品受注も堅調だった。計器類は、半導体製造装置向けは海外需要の弱さから低調だったほか、建設機械向けは受注がやや減少した。ガスメーターは、国内の取り替え需要が続いていることに加え、省エネにつながる家庭用システムの需要も高まり順調だった。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>光学機器は、半導体製造装置向けの新規受注は低調が続く見込み。自動車向けは前年をやや下回るものの堅調な見通し。事業者用プロジェクターのレンズユニットは、安定した海外需要により受注は順調に推移するほか、スマートフォン向けの部品も堅調が続くとみられる。計器類は、半導体製造装置向けや建機向けは低調が続く一方、ガスメーターは国内・海外ともに需要は安定して推移する見通し。</p>
	


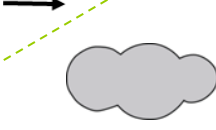
プラスチック製品 : スマホ向けは堅調も容器類は低調が続く

<p>現況</p>	<p>0A・情報機器部品は、事業用複合機の受注が安定的に推移した。スマートフォン向けは、米国完成品メーカーの最新機種で部品生産が前年を上回ったほか、中国の完成品メーカー向けも生産が増加し堅調に推移した。自動車関連の部品は、安全性能を高めた車種の部品生産が概ね前年並みの生産水準を維持し堅調だった。容器類は、化粧品容器が在庫調整局面にあり、受注は低調だった。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>0A・情報機器の部品は、複合機を中心に需要は底堅く前期並みの受注が継続する見込み。スマートフォン向けは、米国完成品メーカーの部品生産が前期水準を上回って推移する見込みのほか、中国メーカーの部品も増加が続くとみられる。自動車関連の部品は、総じて底堅く推移するとみられる。容器類は、化粧品向け以外の容器は例年並みを見込むが、化粧品容器は在庫調整が続き前年を下回るとみられ、総じては低調の見込み。</p>
	


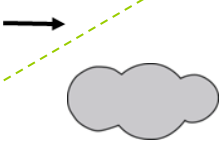
飲料製造 : 台風被害や購買意欲低下の影響が続く見通し

<p>現況</p>	<p>清涼飲料のうち、ミネラルウォーターや茶系飲料、コーヒー飲料などは総じて例年並みの需要動向となったが、台風19号による自動販売機の水没で販売が落ち込んだ事業者もみられた。果汁・野菜飲料も台風による一部工場の被災に加え、農作物への被害により北信地域を中心にリンゴなどの原料調達に支障が生じた。清酒やワインなどのアルコール飲料は年末の宴席シーズンによる最需要期を迎えたものの、消費税増税による購買意欲の落ち込みなどから、販売量は前年を下回った。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>清涼飲料は、茶系飲料やコーヒー飲料などで例年並みの需要動向を見込む。果汁・野菜飲料は、台風による機械設備に及ぼす生産面への影響や原料の調達不足などにより、一部の事業者や製品で例年の生産量を下回る見通し。清酒は、吟醸や純米吟醸などの特定名称酒やアルコール度数の低い発泡清酒などが需要を下支えするも、普通酒の落ち込みや増税の影響などから総じては低調な推移が見込まれる。ワインも、人気銘柄を中心に需要を確保するとみられるが、消費税増税に伴う購買意欲の低下により販売量が伸び悩むが懸念がある。</p>
	


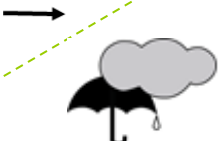
食料品製造 : 時短、健康志向、食品ロス対応の商品を中心に堅調

<p>現況</p>	<p>味噌は、糀の配合を増やした甘口・減塩みそなど健康面に訴求した商品などの生産が堅調だったほか即席みそ汁も底堅かった。製粉は、年末の需要期を迎え、生産は例年と同水準を維持した。乾燥食品やコンビニ向け惣菜は、調理が簡単なスープ類や惣菜などの商品需要が高く前年並みの生産水準で推移した。加工肉は年末の贈答用で生産が順調だったが、CSF（豚コレラ）の流行による原料豚肉の供給不足から原料価格が上昇した。大豆関連製品は、低脂質・低糖質など健康志向に訴求する商品の販売が増加するなど生産は順調だった。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>味噌は、減塩商品や即席みそ汁を中心に生産は堅調の見込み。製粉は例年並みの生産水準となる見通し。乾燥食品は調理の時短・簡便の需要増を背景に安定推移する見込み。コンビニ向け惣菜は食品ロス削減につながるチルドなど日持ちする商品等の需要増加が見込まれる。加工肉は無添加商品など健康に配慮した商品を中心に前年並みが見込まれるが、CSF流行に伴うさらなる原料価格の上昇が懸念される。大豆関連製品は、健康志向に訴求する商品の販売増加が見込まれ生産も順調となる見通し。</p>
	


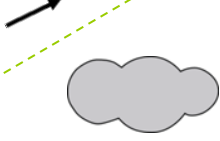
機械器具卸 : 慎重な投資マインドから機械需要は弱い動きが続く

<p>現 況</p>	<p>機械需要は、自動車・半導体・FA関連などの業種を中心に設備投資が抑制され低調だった。空調機器の受注は、教育施設への空調設備設置工事により順調に推移した。機械に取り付ける切削用工具類や金属板等の消耗品受注は、企業の生産活動の低下から減少した。配線機器や分電盤などの電設資材の需要は、民間工事では製造業の大型案件が少なく低調であった一方、公共工事では教育施設への空調設備設置工事が下支えし、全体では堅調に推移した。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>機械需要は、景気の先行きの不透明感から製造業の慎重な投資マインドは変わらず弱い動きが続く見通し。教育施設への空調設備設置工事はピークを超えたものの引き続き予定されており、空調機器の受注は堅調な見込み。消耗品の需要は企業の生産活動の減少から更新が中心となり弱含む見通し。電設資材は、民間工事では企業の慎重な投資姿勢は変わらず前期並みとなる見込みであるが、台風被害からの復興工事が徐々に本格化していくことから、全体の取扱量は堅調に推移する見込み。</p>
	


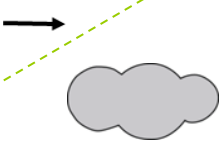
大型小売 : 消費税増税の影響は薄らぐも、競争は激化する見通し

<p>現 況</p>	<p>大型小売店は、食料品などで底堅い動きがみられたものの、雑貨や衣料品は消費税増税前の駆け込み需要に伴う反動減などから、振るわない状況が続いた。百貨店は、宝飾品や化粧品などが駆け込み需要に伴う反動減から伸び悩んだほか、衣料品は、反動減に加え気温が高かった影響などから、冬物が低調だった。スーパーは、食料品を中心に堅調で駆け込み需要に伴う反動減は限定的だったとみられる。しかし、消費税増税に合わせて始まったポイント還元制度により、競合間の競争は厳しいものとなった。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>大型小売店は、消費税増税に伴う影響は次第に薄らぐとみられるが、消費者の節約志向から価格競争は激しくなる見通し。百貨店は、物産展などの催事や、駆け込み需要が大きかった化粧品などの売り上げ増加が期待されるものの、冬物が出遅れた衣料品は今後も苦戦が予想される。スーパーは、生鮮食品や総菜などの食料品が堅調に推移するとみられ、増税に伴う反動減は落ち着く見込み。また、ポイント還元などが引き続き集客に影響を及ぼすとみられており、顧客獲得に向けた競争は業態を越えて激しくなる見通し。</p>
	


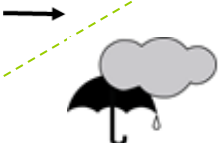
自動車販売 : 新型車効果や年度末に向けての販売台数増加を見込む

<p>現 況</p>	<p>消費税増税による消費者心理の悪化や台風19号による販売店への来店客数の減少から、販売台数は前年を下回った。新車販売は、消費者心理の悪化や一部メーカーで部品の不具合により生産が遅れている車種もあり、前年を下回った。中古車は、新車販売の減少に伴い流通量が減少し、販売台数も減少した。輸入車は、スポーツ多目的車（SUV）や低価格車が一部で伸びたが、販売台数は前年を下回った。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>消費税増税による消費者心理の低迷が懸念されるが、年度末を迎えることや発売が予定されている新型車効果による販売台数増加が期待され、販売台数は前年並みとなる見通し。新車販売は、人気の車種を中心に、燃費性能や安全性能の高い車種の販売が底堅く推移する見通し。中古車は、新車販売の増加に伴い下取り車が確保され、販売は上向く見通し。輸入車は、SUVや低価格車の販売は底堅いとみられるが、高価格車は低調を見込む。</p>
	


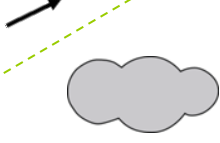
公共工事 : 台風災害に対し本格的な復旧工事が徐々に増加

<p>現況</p>	<p>国では三遠南信自動車道などの道路工事や河川工事が発注され、安定した工事量となった。</p>
	<p>県では防災・減災対策工事を中心に文化施設の大型改修工事などが発注され、例年並みの工事量を維持した。市町村では体育館建設工事や既存施設の改修工事が発注され、工事量は底堅かった。東北信地域では台風災害に伴う応急的な復旧工事がみられた。一部事業者では、施工管理を行う技術者の不足から、工事の入札見送りや人件費の増加がみられた。</p>
<p>見通し</p>	<p>国では道路工事や河川工事、県では防災・減災対策工事を中心としたインフラ関連工事のほか、福祉施設などの大型の改修工事が予定され、全体では安定した工事量を維持する見込み。</p>
	<p>市町村では庁舎、博物館の新設工事や既存施設の維持改修工事が見込まれ、例年並みの水準で推移する見通し。台風被害に対し、東北信の被災地域では徐々に本格的な復旧工事が増加するとみられる。しかしながら、工事量の増加に対し施工管理を行う技術者の人手不足感はますます強まるとみられる。</p>


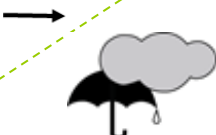
民間工事 : 工場新設が低調に推移し、全体の工事量は弱含む

<p>現況</p>	<p>民間企業の建設投資は、米中貿易摩擦の影響から製造業で設備投資意欲の減退がみられ、非製造業で宿泊施設や福祉施設等の新設があったものの、全体の工事量を押し上げるには至らなかった。新設住宅は、持家を中心に全体としては例年並みの水準で推移したが、分譲はマンションの新規着工がなかったことなどからやや減少した。台風災害に伴い東北信の被災地域では住宅の応急的な修繕が増加した。現場代理人などの技術者の人手不足から人件費の増加がみられた。</p>
	<p>民間企業の建設投資は、非製造業では宿泊施設や物流施設の新設が予定されているが、製造業では設備投資意欲が回復せず工場新設が低調に推移するとみられ、全体の工事量は前年を下回る見通し。新設住宅は、消費税増税の影響から持家の需要の下振れが見込まれるが、台風の被災地域では徐々に修繕や建て替えが増加するとみられる。分譲は、マンションの新規着工が見込まれることから底堅く推移する。人件費の増加や資材価格の上昇などにより、収益への影響が懸念される。</p>
<p>見通し</p>	<p>民間企業の建設投資は、非製造業では宿泊施設や物流施設の新設が予定されているが、製造業では設備投資意欲が回復せず工場新設が低調に推移するとみられ、全体の工事量は前年を下回る見通し。新設住宅は、消費税増税の影響から持家の需要の下振れが見込まれるが、台風の被災地域では徐々に修繕や建て替えが増加するとみられる。分譲は、マンションの新規着工が見込まれることから底堅く推移する。人件費の増加や資材価格の上昇などにより、収益への影響が懸念される。</p>
	<p>民間企業の建設投資は、非製造業では宿泊施設や物流施設の新設が予定されているが、製造業では設備投資意欲が回復せず工場新設が低調に推移するとみられ、全体の工事量は前年を下回る見通し。新設住宅は、消費税増税の影響から持家の需要の下振れが見込まれるが、台風の被災地域では徐々に修繕や建て替えが増加するとみられる。分譲は、マンションの新規着工が見込まれることから底堅く推移する。人件費の増加や資材価格の上昇などにより、収益への影響が懸念される。</p>


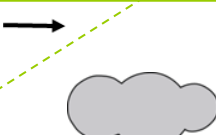
旅客 : 外国人スキー客の増加を期待するも、雪不足の影響が懸念される

<p>現況</p>	<p>高速バスの利用者数は、年末の長期休暇の時期を中心に観光、帰省客の利用が増加したが、台風19号の影響による落ち込みから前年を下回った。山岳観光地行きバスの利用者数は、雪不足の影響からスキー客の利用が伸び悩み前年をやや下回った。貸切バスの利用者数は、台風19号に伴うキャンセルなどもあり、前年を大きく下回った。タクシー利用者数は、台風19号の影響で観光利用が大幅に減少したことから利用者数は前年を下回った。鉄道の定期外乗客数も災害の影響により利用客数が減少した。</p>
	<p>高速バスの利用者数は、年末の長期休暇の時期を中心に観光、帰省客の利用が増加したが、台風19号の影響による落ち込みから前年を下回った。山岳観光地行きバスの利用者数は、雪不足の影響からスキー客の利用が伸び悩み前年をやや下回った。貸切バスの利用者数は、台風19号に伴うキャンセルなどもあり、前年を大きく下回った。タクシー利用者数は、台風19号の影響で観光利用が大幅に減少したことから利用者数は前年を下回った。鉄道の定期外乗客数も災害の影響により利用客数が減少した。</p>
<p>見通し</p>	<p>高速バスの利用者数は、首都圏を中心に例年並みの利用が予想される。山岳観光地行きバス利用者数は、外国人のスキー客を中心に利用増加が期待されるが、年初から続く雪不足の影響が懸念される。貸切バスは、例年並みの需要が予想される。タクシーは、2月から料金の値上げに伴い売り上げは前年を上回る見込みだが、雪不足によるスキー客の利用減少が懸念される。鉄道は前年と同程度の定期外乗客数を確保する見込み。</p>
	<p>高速バスの利用者数は、首都圏を中心に例年並みの利用が予想される。山岳観光地行きバス利用者数は、外国人のスキー客を中心に利用増加が期待されるが、年初から続く雪不足の影響が懸念される。貸切バスは、例年並みの需要が予想される。タクシーは、2月から料金の値上げに伴い売り上げは前年を上回る見込みだが、雪不足によるスキー客の利用減少が懸念される。鉄道は前年と同程度の定期外乗客数を確保する見込み。</p>

貨物：製造業の輸出向けを中心に運送量の減少が続く見通し

<p>現況</p> 	<p>工作機械の運送量は、米中貿易摩擦の影響による需要減少により、海外向けで前年を下回る状況が続いた。自動車部品関連でも海外向けの運送量が減少した。食品関連は安定した荷動きとなったが、消費税増税の影響による消費の落ち込みから日用雑貨などは前年を下回った。ドライバー確保のため募集を継続しているが改善に至っておらず、庸車に依存する状況が続いた。軽油価格は12月から上昇傾向にあり、燃料費がやや増加した。</p>
<p>見通し</p> 	<p>工作機械の運送量は、海外需要の落ち込みから前年を下回る見通し。自動車部品関連も輸出向けの運送量が前年を下回る見通し。食品や飲料は、冬物商材を中心に底堅い荷動きが予想されるが、増税の影響から引き続き弱い動きが続くとみられる。全体の運送量は減少傾向にあるが、依然としてドライバー不足の状態が続くため、庸車依存の状況が続く見通し。ドライバーの待遇改善に加え、燃料価格が緩やかに上昇しており、費用負担の増加も予想される。</p>

ホテル・旅館：外国人観光客の宿泊利用が期待されるも、雪不足の影響を懸念

<p>現況</p> 	<p>国内観光客の宿泊利用は、台風19号の被災によりキャンセルが相次いだ。被災地を中心にボランティアや復興支援事業者の利用により例年以上となる施設もあり、全体として例年並みを確保した。スキーを目的とした観光客の宿泊利用は、例年よりも降雪量が少なかったことから伸び悩んだ地域もあったが、人工降雪機により積雪を確保したスキー場周辺では、年末にかけて利用を伸ばした施設もみられた。宴会部門は、被災直後は自粛によるキャンセルもあったが、年末にかけての忘年会利用が増え例年並みを維持した。</p>
<p>見通し</p> 	<p>スキーシーズンを迎え、スキー場周辺では観光客による堅調な宿泊利用が見込まれる。ふっこう割に加え、その他の地域では、早割や地域限定格安プランにより誘客を図る。スキーや観光を目的とした外国人観光客は、オーストラリアやアジア諸国を中心に堅調な利用が期待される。新年会や歓送迎会などの宴会部門は、件数、規模ともに例年並みとなる見通し。人手不足への対策として、施設の改修にあわせた自動チェックインシステムの導入による省力化や、休館日を設けて有給休暇取得を促し、従業員の定着を図る施設もみられる。</p>